

に不慣れなため、右岸のブッシュ帯でギブアップ。ザイルを出して、この先尾根にぬけるまで、アンザイレンして登ることとなった。岩のグレードでは3級程度なのだが、高度感があるので、少し怖いぐらいの感じだ。右俣の源頭部を眺めると、これまた岩場に突き上げていて、面白そうである。

13:00尾根のブッシュ帯に出てザイルをとき、下降する左沢の源頭に向けてトラバースする。

[タイム] 林道終点(7:30)→大鍋又沢(7:45, 7:50)→中俣出合(8:50)→右沢出合(9:20, 9:35)→尾根(13:00)

### 大鍋又沢中俣左沢

1989年8月26日

L

大鍋又沢中俣右沢より尾根を越え、左沢の源頭にトラバースしてから下降する。沢に降りて10分程下ると、連瀑帯に出る。3m, 2mと続く小滝を下り、F<sub>9</sub>10mは左岸、F<sub>10</sub>15mは右岸を懸垂下降にて下る。F<sub>7</sub>5m, F<sub>8</sub>8mは、左岸を一緒に懸垂下降で降りた。滝はナメ状で滑りやすいが、登ることはできると思われる。

右岸から小沢が入った先も、滝が連続して現われる。ナメの先にあるF<sub>5</sub>2段12mの滝は、左岸を懸垂で下る。あとの滝は、ブッシュを使ったりして下ることができた。

沢が左に曲がった所で連瀑帯は終了となる。3m滝2個を下るとF<sub>2</sub>4m。その先しばらく進んで、沢が右に曲がる手前にF<sub>1</sub>5mがある。F<sub>1</sub>は、左岸を懸垂下降した。

このあと二俣までは、両岸が迫っているものの滝はかからない。小滝を下ると二俣。あとは行動を終えて出迎えてくれた、滝沢川に入った西・鈴木パーティと無線で連絡をとりながら、林道めざして下る。

[タイム] 下降点(13:00)→右沢出合(16:35)→林道終点(17:40)

### 古滝沢(仮称)

1990年8月26日

L<sub>7</sub>

三条の学校跡から車で林道を進み、霧来沢と大鍋又沢の出合付近に駐車。古滝沢(仮称)と大鍋又沢の出合の少し手前で大鍋又沢に降りる。

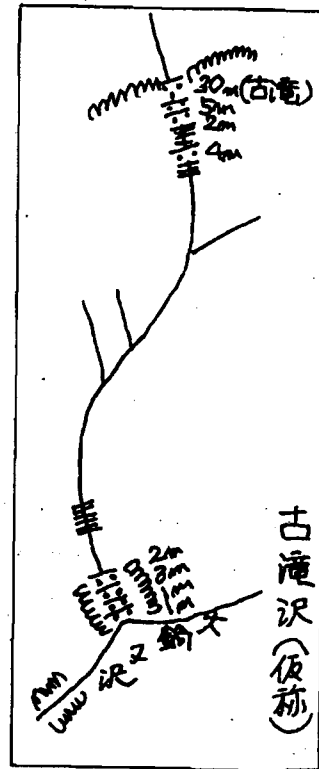
7:40古滝沢(仮称)出合到着。出合は、注意して歩かないと、見逃しそうである。

出合に1mの滝がかかる。たいしたことはないが、どうしても登れない。結局ショルダーでやっと越し、あとに続く小滝はなんとかなった。

出合はまずまずかなと思ったが、あとは地図で感じたとおり延々と川原歩きが続く。みんな我々のためにとっておきに残しておいてくれたものらしく、予想通り(?)の沢である。

川原歩きもいやになった頃、ナメ状になり、滝が出てきた。突然我々の目の前に大岩壁が出現する。真中を落差30mはあろう、古滝である。岩壁は更に高く、50mから80mはあろう。搦きとなると、右岸の尾根まで登らなくてはならない。尾根道は、帰路に予定したものである。思案したが、軟弱者二人である。戦意喪失。本日の遡行はこれまでとし、遡ってきた沢をそのまま引き返す。(記・)

[タイム] 出合(7:20)→古滝(9:00)



### 湯の花沢左俣

1990年8月26日

L

たんぼに水を引く用水路をたどり、取水地点から遡行開始。最初から水量少なく心配したが、二俣の先でちょっとしたゴルジュとなった。その中に2~4mの滝が4つ。ホールドはそれほど多くないが、すべて直登可能である。こんな小さな沢の中にも、なかなか楽しい部分がある。

小さなゴルジュ帯が終わると沢は平凡になるが、しばらくするとまた小滝が出てくる。2m程の小さな滝だが、その右岸に小さな坑道がポッカリ口をあけていた。ズリ石が見当たらないところをみると、試し掘りのあとだろうか。それにしてもこんなところで何を掘りだそうとしたのだろう。

このあと2, 3の小滝を越えると平凡となる。そのうち沢の中に何か白いものを見つけた。動物の骨である。大腿骨のようだ。何の骨だろうと思っていたら、すぐ上流に骨がひとかたまりとなっている。カモシカである。もうすっかり白骨化しているが、毛皮の一部も残っている。頭骨や角などもはっきりと認められ、